

放送大学滋賀学習センター

# 樹 滴

緑豊かな環境

真理のしきたり

第112号



〒520-2123

滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5

龍谷大学瀬田キャンパス 4号館 1階

TEL. 077-545-0362

FAX. 077-545-2096

<http://shiga.ouj.ac.jp/>

## 目 次

「仲麻呂の夢」(滋賀学習センター所長 吉川 栄治) .....	1
「通勤時に会える風景に想う」(滋賀学習センター客員教授 梅澤 直樹) .....	2
滋賀学習センターのセミナーのご案内 .....	3
学習相談会・公開講座のご案内、新任職員の挨拶 .....	5
事務室からのお知らせ .....	6
平成31年度第1学期在籍者統計 .....	10



# 仲麻呂の夢

滋賀学習センター所長 吉川 栄治

『樹滴』109号で万葉集の「讃酒歌」、2月の面接授業では「梅花の序」を取り上げた。どちらも<sup>おおとものたびと</sup>大伴旅人の大宰府長官時代の作である。酒と花にまつわる文化の多様性、万葉人の国際性という文脈の話だった。その梅花の序から新元号が採られたが、4月の首相談話は例によってあさっての方を向いた内容だった。

万葉集は……天皇や皇族、貴族だけでなく、防人や農民まで、幅広い階層の人々が詠んだ歌が収められ、我が国の豊かな国民文化と長い伝統を象徴する国書であります。悠久の歴史と香り高き文化、四季折々の美しい自然。こうした日本の国柄を、しっかりと次の時代へと引き継いでいく。(首相官邸HP)

なんとも時代がかった「香り高き」この談話は、手垢のついた3つのパーツでできている。一つは万葉賛美の常套句「天皇から防人まで」。万葉集には忠君愛国のバイブルとして歌壇・学界ぐるみで国策に協力した前科がある。防人歌「今日よりは顧みなくて大君の醜<sup>しこ</sup>の御<sup>み</sup>楯<sup>たて</sup>(天皇の守り)といでたつ我は」が戦意高揚に使われた。戦後は「日本人の心のふるさと」が看板になったが、「心」の中味はどうにも判然としない。

二つ目は国民文化論。伝統が今につながるという思い込みだが、国民という概念は近代の所産である。

三つ目は自然と四季の自画自賛。志賀重昂<sup>しげたか</sup>『日本風景論』(明治27年)以来の定番で、皇国史観の教則本『国体の本義』(昭和12年)の「我が国は海に囲まれ、山秀で水清く、春夏秋冬の季節の変化もあつて、他国には見られない美しい自然をなしてある」を筆頭に、独善的な自国中心主義をすりこむ呪文として機能した。

だが、「他国には見られない」「日本の国柄」も源をたどれば他国のコピーである。万葉集や古今集と漢籍との比較分析には多年の蓄積があり、梅花の序が中国六朝<sup>りくちやう</sup>の詩文を下敷きにしていることも契沖以来の定説だ。そもそも梅自体が中国原産の輸入木である。国書を強調しても、素性は隠しようがない。

ちなみに、皇室の紋章で国花とされる菊も外来種である。伝来は平安初期で、万葉集には一例もない。キクという名も蘭と同じ音読みだ。七草・節分<sup>じょうし</sup>・上巳<sup>じょうし</sup>・端午<sup>ぼんご</sup>・七夕<sup>せちやい</sup>・中元<sup>ちゅうげん</sup>・盆<sup>ぼん</sup>・十五夜<sup>じゅうごや</sup>・重陽<sup>ちゅうやう</sup>などの季節行事も、米・蕎麦<sup>そば</sup>・饅頭<sup>まんどう</sup>・豆腐<sup>とうふ</sup>・味噌<sup>みそ</sup>・茶などの食文化も、「日本的なもの」の基層には常に中国がある。

花の享受史は日本文化の雑食性と非連続性<sup>ひれんじゆうせい</sup>の見本である。万葉の花は一に萩、二に梅だった。古今集以後は桜が無数の物語と秀歌を生むが、近世に武士道と結合、近代は軍国の花になり、戦後は人工交配種ソメイヨシノが氾濫、桜は文学から政治と商業の具になった。「悠久」にしては節操のない伝統である。

天の原ふりさけみれば春日なる三笠の山にいでし月かも(古今集・百人一首、阿倍仲麻呂)

日本を想う望郷の歌とされる。十代で渡唐し玄宗に仕えて在唐35年、唐の友人たちとの送別の宴でよんだという。だが鑑真を同伴した船団は暴風に遭い、仲麻呂の乗船はベトナムに漂着、帰国の夢は絶たれる。

梅花の宴<sup>やまのうえのおくら</sup>に列した山上憶良も仲麻呂の15年前に入唐している。2004年に西安の工事現場で墓誌が発見された井真成<sup>いのまなり</sup>、仲麻呂とともに漂流した藤原清河も、唐で官途につき現地<sup>にっとう</sup>で没した。当時の遣唐船団は総勢500人、多くの犠牲を出しながら膨大な漢籍・仏典・医薬・技術を伝えた。吉備真備<sup>きびのみまきび</sup>は唐から支給された官費をすべて書物に換えて帰朝したという。わが先祖たちの新知識への執念は尋常ではなかったのである。

仲麻呂帰国に際し、詩友王維は切々と永別の情を詠じた。遭難を伝え聞いた李白は友の悲運を哀哭する詩をよんだ。故国の土をふむことなく70年の生涯を閉じた仲麻呂に、唐朝は大都督の称を追贈する。その160年後、紀貫之は帰京の船路で水平線から昇る月をみて仲麻呂送別の宴に想いをはせ、こう記した。「唐土とこの国とは言<sup>こと</sup>異なるものなれど、月の影は同じ事なるべければ、人の心も同じ事にやあらむ」(土佐日記)。

世界帝国唐は辺境の俊才に門戸を開いた。鑑真の船は難破を免れ律宗伝教の悲願をはたす。彼らが命を賭してもたらした文物が国風文化の礎となったのである。小さな見で張り合うだけ虚しいではないか。

# 通勤時に会える風景に思う

滋賀学習センター客員教授 梅澤 直樹

今秋で70才になります。5年目を迎えた滋賀学習センターの客員教員をはじめとして、現在務めさせていただいているいくつかの職務もあと1年足らずという年齢になったわけです。約45年の社会人生活の最後の1年ということになると、少し感慨深いものがあります。また、そうした目で周囲を見ると、いろいろなものがあらためて新鮮に映じてきます。

たとえば、私は週に2日吹田へ通勤しています。これ自体は昨年度から始まったことで、慣れ親しんだ光景とはとても言えないのですが、大阪方面へこんなに頻繁に通うことはこれまでなかったのでいくつか発見もありました。そうしたなかで、上述のような感慨が後押ししての経験からあらためて学ぶべきところがありましたので、記してみたいと思います。

電車を降りて職場へ向かう歩道の脇の芝生に並木が植えられています。それが、昨年、知らない人々の間に飛び込んで心細い思いをしていたちょうどその頃にとっても美しい花をつけて、私の心を和ませてくれました。名札が付けてあったのでそれがハナミズキであることを知ったのですが、一青窈が歌っていたのはこんな花だったのかという関心も手伝って、その美しく開花した姿がひじょうに印象に残り、最終年にもういちど見たいと、今年は3月頃からとても楽しみにしていました。桜が散り始めた頃だったでしょうか、つぼみがどんどん膨らんできて、今年もあの美しい光景が見られると胸を躍らせ、そして漸くチラホラ咲き始めた頃に、あの大型連休がやってきました。うまく(?) 休日と重なり、ちょうど2週間ほど登校しなかったのですが、連休が明けて登校してみるともう花は散っていました。数週間は咲き誇ってくれていると思い込んでいたので、とてもがっかりしました。しかし、代わりに、ハナミズキの奥にあったツツジが美しい姿を見せてくれていました。そのツツジも今は散り、今度はサツキが歩道に彩りを添えてくれています。

この経験からあらためて思ったのは、人間は印象が強いものほど過大に記憶してしまうものだということです。ハナミズキはおそらく昨年と同じように咲いて、散っていったのでしょうか。しかし、その間に何度か咲き誇る美しい姿を目にした私は、花の盛期をじっさいよりずっと長いように記憶してしまっていたのです。逆に、せっかくきれいに咲いてくれていたのにハナミズキの奥のツツジにはそれほどの関心を寄せていませんでした。サツキの方は、歩道に近いだけ、昨年も楽しませてもらったことを思い出しましたが、緑の木陰で絨毯のようにピンクを広げてくれている鮮やかさの印象はやはり今年の方が強いように思います。

ネット社会になって、人間は結局、自分の見たいものだけを見て、聞きたい話だけを聞くものであって、その結果それぞれがますます特定の考えに縛られてしまい、社会の分断が深まるという困難な状況が広がっているように思います。自分はバランス感覚を働かせていると思っていても、上述のように、印象の強いもののイメージは過大になりがちです。だからこそ、その陰になっている宝物にも目を向け、掘り起こしていきたいと思います。じっさい、そうした眼で沿線の風景を眺めると、同じ緑のようでありながら刻々と色彩を変化させる山の姿の魅力にあらためて気づかされました。また、あれだけ頻繁に電車が走るJR京都線に上下4本の線路しかない区間が多いことに、ダイヤを組む人々の職人芸の素晴らしさを教えられました。もはや紙幅が尽きましたが、あと1年足らず、さらにどんな発見が待っているかを楽しみに、細やかに通勤風景に眼を向け続けたいと思います。



# セミナー のご案内

滋賀学習センターの所長・客員教員が開催する学びの場です。受講は無料で、放送大学の学生、一般の方などでもご参加いただけます（一般の方は1つのセミナーだけ参加できます）。電話・窓口でお申し込みください。

以下の日程は急遽変更になることがあります。滋賀学習センターWEB ページ及び掲示板でお知らせしますので、ご確認ください。



## 古典入門セミナー 「古今集の世界」

吉川 栄治 先生

『古今集』賀の歌（君が代など）、別離の歌（阿倍仲麻呂の歌など）、旅の歌（小野篁の歌など）、哀傷歌（人の死を悼む歌）、老い・無常・不遇を嘆く歌、そして四季の歌を読みま

す。  
7月 9日(火) 10:30~12:00      7月 30日(火) 10:30~12:00  
8月 27日(火) 10:30~12:00  
9月 10日(火) 10:30~12:00      9月 24日(火) 10:30~12:00



## 中国史講読セミナー 「資治通鑑を読む」

秋山 元秀 先生

中国における歴史書として名高い資治通鑑を、実際に原文で読みます。舞台は漢の武帝の時代です。

7月 3日(水) 10:30~12:00      7月 17日(水) 10:30~12:00  
9月 11日(水) 10:30~12:00      9月 25日(水) 10:30~12:00



## 仏教英語入門セミナー 「ちょっと英会話」

石田 法雄 先生

仏教思想を英語で講義し、日本語で解説し、討論を行います。諸行無常の英訳は Everything is changing. です。系統立てた講義ですが、毎回テーマがありますので自由に参加して下さい。

7月 5日(金) 13:30~15:00      7月 12日(金) 15:15~16:45  
8月 2日(金) 13:30~15:00      8月 9日(金) 13:30~15:00  
9月 6日(金) 13:30~15:00      9月 13日(金) 13:30~15:00



## 経済学セミナー 「現代経済学史の射程」

梅澤 直樹 先生

前期に引き続いて、経済学説の歴史から、経済とはいかなる営みかを問い直すことを通じて、成熟期にある日本経済の向かうべきビジョンを探ります。

7月 10日(水) 10:30~12:00  
8月 7日(水) 10:30~12:00      8月 21日(水) 10:30~12:00  
9月 4日(水) 10:30~12:00      9月 18日(水) 10:30~12:00

NO  
IMAGE中国研究セミナー「中国の異民族支配について学ぶ」

兼重 努 先生

『中国の異民族支配』(横山宏章著)を読みすすめ、近代中国における漢民族による異民族(=少数民族)支配の論理について学びます。本書を読んで質問をお寄せいただき、兼重がお答えする形ですすめていく予定です。

7月 9日(火) 13:30~15:00

7月 16日(火) 13:30~15:00

コミュニティ・デザイン研究セミナー「21世紀社会におけるまちづくりの課題」

川中 大輔 先生

まちづくりを巡る社会環境が変化し、従来のカタチには限界が見られてきています。にも関わらず、一層の拡充・推進が期待されています。この中でどのような実践を構想していくべきでしょうか。この問いについて考えていきましょう。

7月 12日(金) 13:30~15:00

9月 20日(金) 13:30~15:00

現代化学セミナー 「電子から化学を学ぶ」

藤原 学 先生

化学は、物質の構造や性質について研究する自然科学の一つです。そこでは電子が大きな役割をしており、現代の化学を理解するには電子の観点から学ぶ必要があります。電子の世界から化学を学んでいきましょう。

7月 16日(火) 10:30~12:00



職名	氏名	現職名等	専門分野
所長	吉川 栄治	放送大学特任教授・滋賀大学名誉教授	国文学
客員教員	秋山 元秀	滋賀短期大学長・滋賀大学名誉教授	歴史地理学・人文地理学
	石田 法雄	滋賀県立大学名誉教授	宗教学・英語英文学
	梅澤 直樹	大和大学教授・滋賀大学名誉教授	社会経済学
	兼重 努	滋賀医科大学教授	文化人類学
	川中 大輔	龍谷大学講師	社会学
	藤原 学	龍谷大学教授	機器分析化学

## 学習相談会のご案内

修学上のいろいろな問題について、所長および客員教員が学習相談に応じます。

勉強会終了後に学習相談会を設けていますので、相談をご希望の方はこの機会をご活用ください。

- ① 事務室窓口横のラックにある「学習相談会申込書」に必要事項を記入し、事務室に提出してください。
- ② 原則、勉強会終了後の学習相談会での相談となりますが、それ以外での相談の場合は、日時などを調整後、ご連絡いたします。

所長への学習相談は随時受け付けていますので、お気軽にお申し出ください。

なお、出張等による不在日がありますので、事前に事務室で所長の予定をご確認いただき、電話または窓口でご予約ください。

## 無料公開講座のご案内

滋賀学習センターは、集える学習センターづくり(地域貢献と広報活動)の一環として、次のとおり公開講座を開催します。興味のある方はご参加ください。

### 公開講座Ⅰ

■日時：8月4日(日) 14:00～15:45

■講座名：「近江とは何か」

■講師：吉川 栄治 先生

(放送大学滋賀学習センター所長)

### 公開講座Ⅱ

■日時：9月8日(日) 14:00～15:45

■講座名：「異文化理解入門」

■講師：兼重 努 先生

(滋賀医科大学教授)

※いずれの講座も

■会場、連絡先： 放送大学滋賀学習センター

(TEL. 077-545-0362、公開講座受け付け専用メールアドレス：shiga-sc@ouj.ac.jp)

■参加者：先着100名、一般・学生に係わらず誰でも参加可能(予約が必要)です

■申込み方法： 電話またはメールで直接滋賀学習センターに申込みをしてください。

## 新任職員の挨拶

平成31年4月に事務長として着任いたしました松尾と申します。母体校の龍谷大学では、3月まで学生の大学生活を支援する学生部で勤務しておりました。その時に、一番大事にしてきたことは、何かあれば、学生がすぐに相談できる身近な存在となることでした。放送大学においてもその気持ちを大事にして、学生のみなさんを支援してまいりたいと存じますので、よろしく  
お願いいたします。

松尾 修

新緑の美しい5月から、放送大学滋賀学習センターで教務の仕事させていただくことになりました鈴木美貴子です。以前は教育相談センターで小・中学生の不登校対応をしておりました。少しでも早く仕事を覚えて皆様の学びをサポートできるよう励んでゆきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

鈴木 美貴子

4月から西村育郎さんの後任の広報企画担当として着任いたしました今井と申します。3月までは津市内の中学校長として勤務しておりました。義務教育から生涯学習へと大きく関わらせて頂く内容は変わりましたが、「人生100年時代」と言われる社会の中で、放送大学の可能性や未来を感じています。皆様とともに学び続けたいと思っております。

今井 弘樹

# 事務室 からの お知らせ

単位認定試験、図書・再視聴室の利用、卒業研究の履修申請、次学期に向けての手続き、学生証の有効期限、各種変更手続き、インターネット配信、などについてご案内します。

## 単位認定試験について

通信指導の合格により受験資格が得られます。未提出または不合格の場合は受験できません。通信指導の結果は添削結果と同時期に送付される**単位認定試験通知(受験票)**によって通知されます。受験票が**7月12日(金)になっても到着しない場合は、あるいは紛失した場合は、大学本部(TEL:043-276-5111)へ連絡してください。**



単位認定試験については、「受験票」、受験票に同封の「単位認定試験に際しての注意事項」および「学生生活の葉」(学部:67頁～79頁、大学院:62頁～74頁)を熟読してください。

### ■期間

【大学院】 7月19日(金)、7月20日(土)

【教養学部】 7月21日(日)～7月28日(日)

※7月22日(月)、7月26日(金)を除く

### ■必要なもの

#### ★単位認定試験通知(受験票)

試験日の約1週間前までにご自宅に送付されます。

ただし、添削結果が単位認定試験通知(受験票)より早く届く場合がありますので、添削結果が択一式科目:7月8日(月)、記述式科目:7月19日(金)までに届かない場合は、大学本部(Tel:043-276-5111)へ連絡して内容を確認しておいてください。

#### ★学生証

学生証は、学習センターで発行します。発行するためには、事前に写真票を大学本部に提出していただき、システムWAKABAに登録されていることが必要です。写真票は、試験日まで余裕をもって大学本部に提出してください。(発行には数日かかります)

#### ★HBの黒鉛筆 シャープペンシルは不可です。

#### ★持込み許可物品

受験票に同封されている「単位認定試験受験に際しての注意事項」に記載されていますので、必読ください。学習センターでは、持込み許可物品の貸与はできません。

### ■時間割等

★試験開始の10分前までに、受験票に指定された試験室に入室してください。

★1時限は50分です。

★1時限に1科目の受験です。

★遅刻は試験開始後20分まで認められますが、時間の延長はありません。

★試験開始30分経過後は退室することができます。

(一部のリスニング科目を除く)

単位認定試験実施時間割	
第1時限	9:15～10:05
第2時限	10:25～11:15
第3時限	11:35～12:25
第4時限	13:15～14:05
第5時限	14:25～15:15
第6時限	15:35～16:25
第7時限	16:45～17:35
第8時限	17:55～18:45

### ■駐車場

自家用車で来る方は、事前に事務室で「入構許可証」発行を済ませてください(『利用の手引き』巻末にある「入構許可申請書」に記入の上、提出してください)。満車時は、バス停横の大駐車場をご利用ください。

## ■試験結果

試験結果は、8月下旬に「成績通知書」によって通知されます。なお、システム WAKABA でも成績を確認することができます。

## 図書・再視聴室の利用について

### ■利用時間 通常期間 9:15~17:45 (試験期間 9:00~18:45)

図書・再視聴施設への入室時には、学生証が必要です。



### ■図書の閲覧

図書資料は、書架より自由に取り出して閲覧できます。

### ■図書の貸出・返却

2019年4月から、学習センターの図書の貸し出しは行いません。貸出を希望する場合は大学本部の附属図書館を利用ください。

※詳しくは「学生生活の葉」(P114)もしくは附属図書館のホームページ(<http://lib.ouj.ac.jp/>)でご確認ください。

※学習センター閉所日や開所時間外での大学本部の附属図書館の図書資料の返却は、玄関前に設置の返却ポストをご利用ください。閉所中は「図書・再視聴室」へ返却してください。

### ■放送教材(DVD/CD)の視聴

放送教材は受付カウンターで手続きをすれば、室内視聴が可能です。(登録科目以外の放送教材も視聴できます。) 2019年度以降(大学院は2018年度以降)の新規開設科目につきましては、放送機材(DVD・CD)の配架は行いません。配架中の放送機材は閉講になるまで視聴できます。インターネット視聴端末では全科目の視聴ができます。

※ 放送教材の貸出は、現在登録している科目及び再試験科目の放送教材を郵送にて大学本部からご自宅に取り寄せることができます。往復の送料は、貸出希望者の負担になります。詳しくは「学生生活の葉」(学部:33頁~35頁、大学院:44頁~47頁)を熟読してください。

### ■一学期の閉室日

\* 毎週月曜日・祝祭日

\* 9月24日(火)~9月29日(日)(図書・放送教材の整理)

### ■ロッカーおよびメッシュケースの利用

学习上必要とする教材以外の所持品(かばん等)は、図書・再視聴室へは持ち込まないで、ロッカーを利用してください。

なお、貴重品は必ず身に付けてください。ロッカーの利用は当日限りとし、無料です。(100円硬貨リターン式)

また、カウンターにメッシュケースを置いていますので、教材等の持ち運びにご利用ください。なお、メッシュケースの利用は当日限りとします。

## 2020年度履修者用 卒業研究の履修申請について

### ■申請時期について

[新規履修希望者]

申請期間: 2019年8月16日(金)~22日(木)【本部必着】

提出先: 大学本部学生課卒業判定係





## ■履修申請条件

履修申請の条件は、**2年以上**在学し、**62単位**以上を修得していることです。

※全科履修生として休学期間及び停学期間を除いて2年(2年次編入学者にあつては1年)以上在学し、62単位以上修得していることです。3年次編入学者は2年在学したものとみなします。

(休学中の申請はできません。申請後に休学や卒業をすると履修資格を失います。)

※2020年度卒業研究履修申請の特例者については、「2017年度第2学期第1年次入学者及び、2018年度第2学期第2年次編入学者のうち休学及び停学をしたことのない者で、2019年度第1学期末までの修得見込み単位数が、62単位以上の者」とします。上記の履修申請条件を満たしたうえで、履修開始の前年度に「卒業研究申請書」を作成、提出し、審査により認められた場合に、卒業研究の科目登録及び履修ができます。

「卒業研究履修の手引」及び「別冊」(申請書等)の配布を学習センターで行っています。履修申請要件及び申請方法等について必ずご確認の上、申請してください。詳細は、卒業研究履修の手引」及び「別冊」(申請書等)をご覧ください。

## 次学期にむけての手続きについて

### <9月で学籍が切れる方>

学習を継続される方、再試験を受ける方は継続入学をしてください。

■申請期間:第1回(郵送)8月31日(土)まで ※本部必着 (インターネット)8月31日(土)24:00まで  
第2回(郵送)9月20日(金)まで ※本部必着 (インターネット)9月20日(金)24:00まで

■提出物:継続入学用出願票

※選科生、科目生から全科生へ入学する場合は、「学生募集要項」で出願してください。

※新規に科目登録をせず、再試験のみを希望される場合は、「今回は再試験のためだけの出願である」に○を付けてください。

### <次学期も学籍が続く方> 「学生生活の葉」学部:60頁~64頁、大学院55頁~61頁参照

期間内に次学期の科目登録をしてください。

■申請期間:(郵送)8月15日(木)~8月30日(金) ※私書箱必着  
(システム WAKABA)8月15日(木)9:00~8月31日(土)24:00まで

■提出物:科目登録申請票

### <今学期で卒業見込みの方> 「学生生活の葉」学部:95頁~100頁参照

学習を継続される方は、以下の通り入学手続きをしてください。

#### ⇒学籍が続く方

##### ①卒業となった場合の手続き

■申請期間:第1回(郵送)8月31日(土)まで ※本部必着 (インターネット)8月31日(土)24:00まで  
第2回(郵送)9月20日(金)まで ※本部必着 (インターネット)9月20日(金)24:00まで

■提出物:継続入学用出願票

##### ②卒業とならない場合に備えての手続き

■申請期間:(郵送)8月15日(木)~8月30日(金) ※本部必着  
(システム WAKABA)8月15日(木)9:00~8月31日(土)24:00まで

■提出物:科目登録申請票

システム WAKABA  
をご活用ください!



⇒**学籍が切れる方**①**卒業となった場合の手続き**

- 申請期間: 第 1 回(郵送)8月31日(土)まで ※本部必着 (インターネット)8月31日(土)24:00まで  
第 2 回(郵送)9月20日(金)まで ※本部必着 (インターネット)9月20日(金)24:00まで

■ 提出物: 継続入学用出願票

②**卒業とならない場合に備えての手続き**

- 申請期間: 第 1 回(郵送)8月31日(土)まで ※本部必着 (インターネット)8月31日(土)24:00まで  
第 2 回(郵送)9月20日(金)まで ※本部必着 (インターネット)9月20日(金)24:00まで

■ 提出物: 学生募集要項出願票

**学生証の有効期限について**

学生証の有効期限が切れた方は、期限切れの学生証を持参し、学習センターで学生証の交換手続きを行ってください。(全科生=2年間 選科生=1年間 科目生=半年間)

**各種変更手続きについて**■ **住所等の変更**

入学後、「現住所」、「連絡先の電話」に変更があったときは、すみやかに「住所等変更届」を提出(システム WAKABA での届出も可)するとともに、「現住所」変更の場合は、最寄りの郵便局にも転居届を提出してください。  
「学生生活の葉」学部:89頁、院:83頁参照

■ **氏名の変更**

入学後、「氏名」に変更があったときは、すみやかに「氏名変更届」を提出(システム WAKABA での届出も可)してください。なお、あわせて学生証再発行の手続きも行ってください。

※ 手続きを行わなかった場合は、単位認定試験の受験が認められないことがあります。

「学生生活の葉」学部:89頁、修士:79頁、博士:82頁参照

■ **学生証の再発行**

紛失、盗難等により学生証を失った場合、汚損等により使用不能となった場合及び氏名の変更があった場合には、すみやかに学生証再発行の手続きを行ってください。その際には、「学生証再発行願」に必要事項を記入の上、所属学習センターで発行手続きを行ってください。発行には手数料500円が必要です。

「学生生活の葉」学部:20頁、修士:26頁、博士:28頁参照

上記の提出先

◇**教養学部**◇

住所等変更届: 滋賀学習センター

氏名変更届: 大学本部学生課入学・履修係

◇**修士全科生・博士全科生**◇

大学本部教務課大学院企画・入試係

◇**修士選科生・科目生**◇

大学本部学生課入学・履修係

※**諸様式は、「学生生活の葉」の巻末にあります。**

**滋賀学習センターにおける臨時閉所 と 10/8 研修旅行のお知らせについて**■ **臨時閉所のお知らせ**

諸般の事情により、下記の期間を臨時閉所とします。

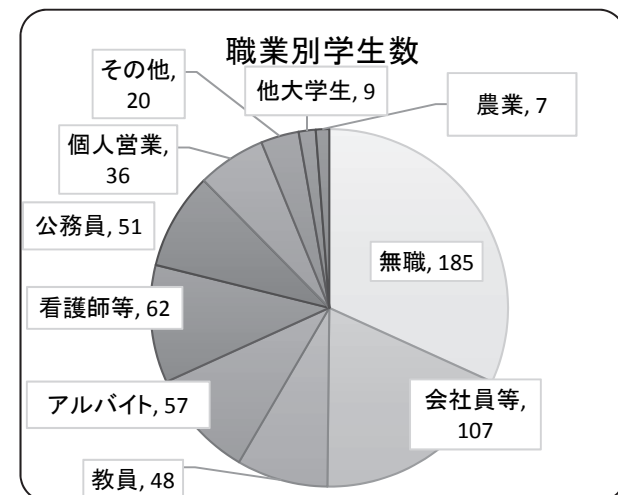
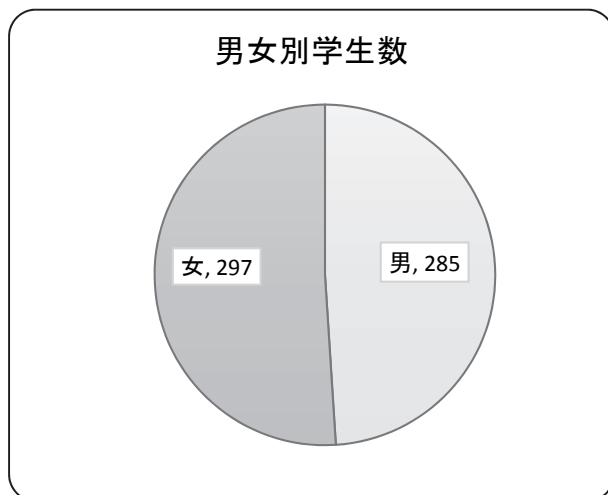
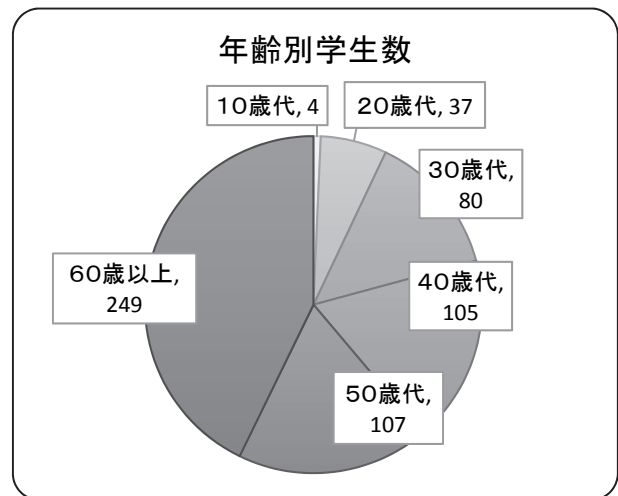
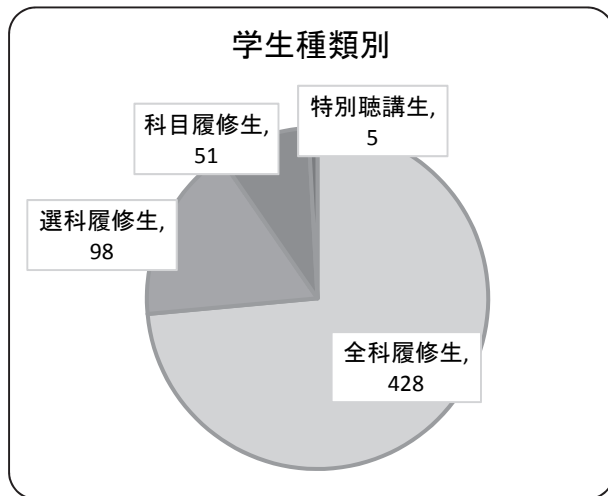
8月13日(火)～15日(木)大変ご迷惑をおかけしますが、よろしくご理解いただきますようお願いいたします。

■ **研修旅行のお知らせ**

きたる10月8日(火)に学生研修旅行を実施します。今回は「舞鶴紀行—海と歴史の旅—」と銘打ち、引揚記念館、赤レンガパーク、自衛隊棧橋などをめぐります。参加申込期間は、8月27日～9月8日、参加申し込み及び行程の詳細はHPで確認してください。定員は40人です。希望者が多い場合は抽選を行います。

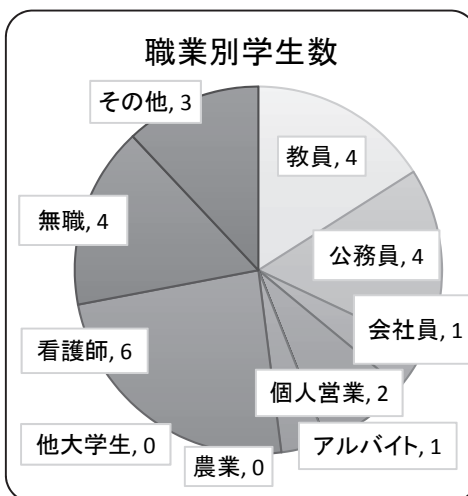
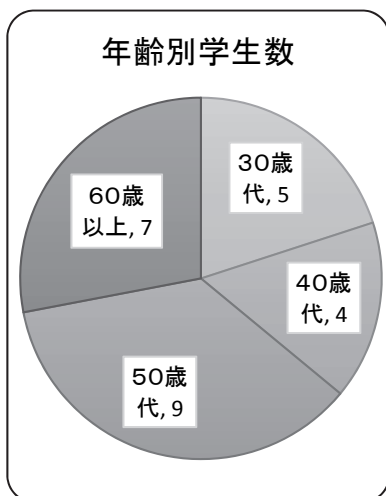
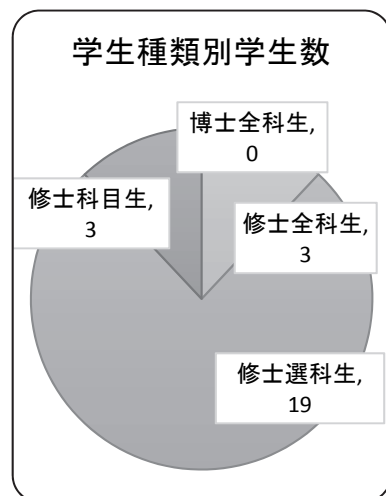
## 平成 31 年度第 1 学期在籍者統計

◇教養学部： 582名（男性 285名、女性 279名、最年少18歳、最高齢92歳）



※職業別グラフで「無職」には定年退職者や専業主婦(夫)も含まれます。

◇大学院： 28名（男性 13名、女性 15名、最年少 31歳、最高齢 77歳）



※皆さまのお近くにおられる友人や知人に放送大学を是非おすすめください。



# スケジュール



7 月			8 月			9 月		
日	曜	内 容	日	曜	内 容	日	曜	内 容
1	月	閉所日(創立記念日)	1	木		1	日	2019年度第2学期大学院修士選科生・科目生 教養学部学生募集第2回出願受付開始 (~9/20まで)
2	火		2	金	集中科目履修生(司書教諭・看護)放送授業終了 【セ】石田13:30	2	月	閉所日 オンライン授業終了
3	水	【セ】秋山10:30	3	土		3	火	
4	木		4	日	公開講座(滋賀SC 14:00)	4	水	【セ】梅澤10:30
5	金	【セ】石田13:30	5	月	閉所日	5	木	
6	土	面接授業	6	火		6	金	【セ】石田13:30
7	日	面接授業	7	水	【セ】梅澤10:30	7	土	
8	月	閉所日	8	木		8	日	公開講座(滋賀SC 14:00)
9	火	【セ】吉川10:30 【セ】兼重13:30	9	金	【セ】石田13:30	9	月	閉所日
10	水	【セ】梅澤10:30	10	土		10	火	【セ】吉川10:30
11	木		11	日	閉所日(山の日)	11	水	【セ】秋山10:30
12	金	【セ】川中13:30 【セ】石田15:15	12	月	閉所日	12	木	
13	土	教員免許更新講習放送授業(インターネット配信)開始(~8/25まで)	13	火	臨時閉所日(夏季) 集中科目履修生(司書教諭・看護)通信指導提出期限	13	金	【セ】石田13:30
14	日		14	水	臨時閉所日(夏季)	14	土	
15	月	閉所日(海の日)	15	木	臨時閉所日(夏季) 2020年度大学院博士・修士・全 科生出願受付開始(~8/31) 第2学期科目登録申請(面授授業 含)受付開始(郵送~8/30まで・web~8/31まで)	15	日	
16	火	【セ】藤原10:30 【セ】兼重13:30	16	金	2020年度(新規)卒業研究履修申請開始 (~8/22まで)	16	月	閉所日(敬老の日)
17	水	【セ】秋山10:30	17	土		17	火	
18	木	第1学期放送授業終了	18	日		18	水	【セ】梅澤10:30
19	金	第1学期大学院単位認定試験 夏期学習期間(再放送等)開始(~9/30まで)集中科目履修生 放送授業(司書教諭・看護)開始(~8/2まで)	19	月	閉所日	19	木	
20	土	第1学期大学院単位認定試験	20	火		20	金	【セ】川中13:30
21	日	第1学期教養学部単位認定試験	21	水	【セ】梅澤10:30	21	土	
22	月	閉所日	22	木	2020年度新規卒業研究履修申請期限	22	日	
23	火	第1学期教養学部単位認定試験	23	金		23	月	閉所日(秋分の日)
24	水	第1学期教養学部単位認定試験	24	土	教員免許更新講習修了認定試験	24	火	図書・放送教材整理のため再視聴室閉室(~9/29まで) 【セ】吉川10:30
25	木	第1学期教養学部単位認定試験	25	日	教員免許更新講習修了認定試験 教員免許更新講習放送授業 (インターネット配信)終了	25	水	【セ】秋山10:30
26	金	臨時閉所日	26	月	閉所日	26	木	
27	土	第1学期教養学部単位認定試験	27	火	【セ】吉川10:30	27	金	集中科目履修生(看護)単位認定試験
28	日	第1学期教養学部単位認定試験	28	水		28	土	集中科目履修生(看護)単位認定試験
29	月	閉所日	29	木		29	日	卒業証書・学位記授与式 入学者の集い
30	火	【セ】吉川10:30	30	金	第2学期科目登録申請(面授授業を含む) 受付期限(郵送)	30	月	閉所日 夏期学習期間(再放送等)終了
31	水	体育実技単位認定申請締切	31	土	2020年度大学院博士・修士・全 科生出願受付期限 第2学期学生募集出願受付第1回締切 第2学期科目登録(面授授業含)受付締切(web)			【セ】セミナー

◇表紙写真説明

左下: 面接授業「町歩きで学ぶ歴史地理(京都)2」(安藤哲郎先生) 右下: 面接授業「セミナー」資通鑑を読む」(秋山元秀先生)